

朝鮮人ノ人種解剖學的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30630

原 著

朝鮮人ノ人種解剖學的研究

京城醫學專門學校解剖學教室

醫學博士 久 保 武

明治四十年八月前大韓醫院ノ創設ニ際シ余ハ恩師大澤(岳)先生ノ推舉ニヨリ其教育部教官トシテ聘セラレ四十二年日韓併合ノ時迄京城ニ在リ其間余ハ解剖學教授ノ餘暇主トシテ朝鮮人ノ生體ニ就キ體質人類學的研究ヲ行ヘリ而シテ其計測篇ハ先キニ東京帝國大學醫科大學紀要第十二卷(千九百十三年)ニ於テ之ヲ公ニシ記載篇ノ一部ハ大正六年京城醫學專門學校紀要ニ於テ發表セリ。

大正四年八月朝鮮總督府京城醫學專門學校ノ設ケラレントスルニ當リ再ビ聘セラレテ京城ニ轉任スルヤ余ハ今日ニ至ル迄教授ノ傍ラ專ラ朝鮮人死體ノ人種解剖學的研究ニ就事セリ。

思フニ人體ノ外形骨格ニ於テ既ニ各人種間又ハ地方ノ異ナルニ從ヒ種々ノ特徴ヲ認メラルル以上軟部即チ筋肉、內臟、脈管、神經等ニ於テモ亦各民族ニ從ヒ種々ノ相違アルベキハ素ヨリ言フ俟タザル也。

コレヲ實地醫學ノ上ヨリ見ルモ凡テ衛生治療ニ關スル事ハ皆先ツ各民族ノ體質ニ就テ研究シ其體質ニ適合セル法ニヨリ應用セザルベカラズ換言スレバ醫學ハ世界各國ニ於テ各其民族的ニ研究シ應用スベキモノ也。

更ニ民族統治ノ上ヨリ之ヲ論ズルモ各民族ノ體質ニ關シ各器官系統ノ優劣ヲ研究シ特ニ其劣等ノ器官ニ就テ之ヲ改善スベク教育シ且ツ練習セシムルハ甚ダ重要ノ事タルベシト信ズ。

然ルニ人種軟部ノ研究ハ甚ダ容易ノ業ニアラズ實ニ此研究ハ畢竟吾人解剖家以外殆ンド其材料ヲ求メ得ベカラザルノミナラズ實地解剖ニ從事スル者ト雖特ニ此種ノ趣味ヲ以テ深キ注意ヲ拂ヒ精査スルニアラズンバ何等ノ成績モ擧ゲ得ザルベキナリ。

余ハ余ノ教室ニ於テ解剖實習ニ臨ムヤ常ニ其所謂正規トシ又ハ普通ト認メラルル凡テノ筋肉ニ就テ一々計測秤量シ又健全ナル各内臓ニ就テモ一々其大サ及ビ重量等ヲ測定シ更ニ組織實習ニ供スベキ材料ヲモ應用シテ其顯微鏡的計測ヲ試ミ其他主要ナル血管、神經等ノ測定ヲモ行ヒ依テ以テ朝鮮人ノ人種解剖學——體質的人類學ノ大成ヲ期セント企テタリ。

大正五年六月朝鮮醫學會第六回總會ニ於テ余ハ「朝鮮人ノ人種解剖學的研究第一報告」トシテ余ノ計劃セル研究事項ノ全般ヲ述ベ朝鮮人軟部ニ就テノ全成績表ヲ揭示シ第一ニ筋肉系統ヨリ始メ先ヅ頭筋ニ就テハ朝鮮人ノ下顎筋(咀嚼筋)ノ特ニ發育大ナルコトヲ注意セリ。

次ニ余ハ朝鮮醫學會雜誌第十七號(大正六年二月)ニ於テ「朝鮮人ノ解剖學的研究」ト題シ余ガ朝鮮人男屍四十、女屍六名ニ就テノ研究事項ノ全般ヲ掲載シ先ヅ背筋ノ成績ヨリ記載ヲ始メタリ而シテ朝鮮人ノ背筋深層筋ノ特ニ大ナルヲ以テ此民族ノ人種的特徴ノ一ナリト主張セリ。

(但シ余ハ頭筋殊ニ顔面筋ニ就テハ其後尙精細ニ研究スルノ必要ヲ感シ更ニ調査シツ、アリシ爲メ背筋ヨリ記載ヲ始メタル也)

余ハ更ニ大正六年第七回朝鮮醫學會總會ニ於テ「朝鮮人ノ人種解剖學的研究第二報告」トシテ此ノ研究報告ヲ繼續シ先ヅ背筋ニ就テ女子三名ノ成績ヲ掲ゲ次ニ頭筋殊ニ顔面筋ノ成績ニ就テ動物ノ顔面筋ト比較シ朝鮮人ノ顔面表情ニ關スル諸筋ノ發育不良ナルコト等ニ關シ其概要ヲ述ベタリ(朝鮮醫學會雜誌第十九號第七回總會記事抄錄參

照)。

余ハ筋肉系統ノミニ就テモ尚頸筋、胸筋、腹筋及ビ四肢筋ヲ述ベザルベカラズ、更ニ消化器、呼吸器、尿生殖器ヨリ進ンデ循環器及神經系統(腦、脊髓)ニ就テモ論ゼザルベカラザル也。

而モ余ハ尙其後死體材料ノ適良ナルモノアル毎ニ特ニ一二ノ器官ニ就テ測定セルモノアリ若シ此等研究ノ全成績ヲ各系統ニ從ツテ一々詳細ニ論述セントスル時ハ其範圍甚ダ廣汎複雑ニシテ殆ンド限リナキヲ覺ユ。於是乎余ハ今年四月四日東京ニ開カレタル第五回日本醫學會第一部分科會ニ出席スルヤ「朝鮮人ノ人種解剖學的研究」ト題シ余ガ朝鮮人ノ各器官系統ニ就テ一々研究セル全成績ヲ總括シ最モ簡單ニ其要點ヲ述ベントシ先ヅ此演題ノ下ニ余ガ最近調査セル朝鮮人ノ體格(各道別ニ比較セルモノ)ニ就テノ成績(朝鮮醫學會雜誌第十九號第七回總會誌參照)ヲ報告シ次ニ余ガ一昨年來研究ニ着手セル朝鮮人ノ指紋研究(目下京城醫學專門學校紀要大正七年度ニテ出版スベク印刷中)モ簡單ニ述ベタルノミナリキ。

大正七年六月一日第八回朝鮮醫學會總會ノ開カルルヤ余ハ「朝鮮人ノ人種解剖學的研究第三報告」トシテ更ニ大正五年九月以後大正七年五月末ニ至ル間ニ於テ特ニ一二ノ器官ニ就テ測定セル材料(男屍四十一、女屍五名)ノ成績ヲモ加ヘ材料總數男屍八十一、女屍十一名ノ成績ニ就テノ要點ヲ演述セリ。

今余ハ茲ニ余ガ本研究成績ノ一般ヲ簡單ニ記載セントス。

材料ニ關スル事

本研究ニ供シ得タル朝鮮人死體ノ數ハ余ノ第一回ノ報告(大正六年二月朝鮮醫學會雜誌第十七號)ニ於テハ大韓醫院時代ノモノヨリ大正五年七月迄ノ間ニ得タル男屍四十、女屍六名ナリキ其後余ハ尙大正五年九月ヨリ大正七年五月末ニ至ル間ニ於テ男屍四十一、女屍五名ニ就キ特ニ一二ノ器官ニ就テ測定ヲ行ヘリ故ニ余ガ今日迄研究ニ供シ得タル朝鮮人死體ノ總數ハ九十二體(男屍八十一、女屍十一名)トナル也。

(71)

此等貴重ノ材料ハ主トシテ西大門監獄其他京城監獄、永登浦監獄及ビ總督府醫院等ヨリ受領セシモノナリ茲ニ上記諸官所長官ニ對シ謹テ感謝ノ意ヲ表ス。

死體ノ大多數ハ病死者ナリシ爲メ病理教室ニ於テ頭、胸、腹腔等剖檢セラレ只死刑者ノ少數ノミハ全死體ヲ得タルニ過ギズ此内特ニ全身各器官ニ就テ悉ク計測秤量シ得タルモノ一名アリ(屍番七號、男屍四十一歳京畿道人死刑者身長一五四糎體重四七、七六五基瓦ナリ)即本報告ノ資料中最モ重要ナルモノトス。余ハ尙朝鮮人ニ就テノ成績ヲ日本人及歐洲人ノモノト比較セント欲セシモ日本人ニ就テノ此種ノ研究成績ノ完全ナルモノハ無ク殊ニ筋肉ニ就テハ二三ノ破格統計ノ外普通ノ筋肉一般ニ就キ一々其大サ重量ヲ測定セル者ハ一モ之ヲ見ザリキ。

又日本人ノ内臟ノ大サ及重量ニ就テハ大澤(岳)博士ノ著書ニ記載セララルモノノ外只一部ノ器官ニ就テ二三専門家ノ報告アルニ過ギズ。

故ニ余ハ日本人ニ就テ足ラザル所ハ先年(明治三十九年)余ガ愛知醫學專門學校在職中特ニ一死刑者(男屍四十一歳三重縣人身長一五六・五糎體重四八、五〇七基瓦)ニ於テ全身各器官ニ就キ一々計測秤量セルモノ及ビ其他一二ノ點ヲ計測セル男屍十、女屍二名(小兒二名)合計十五名ニ就テノ成績ヲモ加ヘ比較スル事トセリ。

調査事項

第一 皮膚及毛髮

朝鮮人軟部ノ検査事項トシテハ余ハ第一ニ皮膚及ビ毛髮ノ研究ヲ企テ次ニ筋肉ノ測定ヲ行ヘリ。

蓋シ皮膚(毛髮)及ビ筋肉ハ余輩ノ得タル材料ノ殆ンド凡テニ於テ存セルヲ以テ余ハ材料ノ適良ナルモノニ限り防腐液ヲ注入ヲ行ハズシテ可成の速ニ一部又ハ全部ノ研究ヲ行ヘルナリ。

皮膚ハ三十六箇處ヨリ切り取り顯微鏡的切片ヲ作り表皮、真皮及皮下結締織ノ厚サ等ヲ測定シ就中表皮ニ就テ各層細胞ノ數及ビ大サ並ビニ色素細胞等ニ就テ精査シ真皮ニ就テハ乳頭ノ數大サ等ヲ測定スルコトトセリ。

(但シ朝鮮人ノ皮膚ノ肉眼の検査及ビ朝鮮人ノ入墨 [Tattooing] (文身)ニ關シテハ京城醫學專門學校紀要大正六年度ノ中ニ掲載セリ)

毛髮ニ就テハ長毛、短毛、毳毛ノ三種ニ類別シ長毛トシテハ頭髮、發情期毛(陰毛、ヒゲ、腋毛)ニ就キ短毛トシテハ眉毛、睫毛、鼻毛、耳珠毛ニ就キ其濃疎、數、長さ、重量、方向(毛並)、色、性状、強サ(硬軟)、横斷面等ヲ検査測定シ毳毛トシテハ生體ニ於テ顔面、軀幹及四肢ニ於ケル一般生毛ノ度ヲ統計的ニ調査セリ。是等毛髮ノ研究成績ハ朝鮮醫學會雜誌第十六號ニ於テ毛髮ノ研究第一報告(頭髮)同雜誌第十八號ニ於テ毛髮ノ研究第二報告(發情期毛―陰毛、ヒゲ、腋毛)同雜誌第二十號及第二十一號ニ於テ毛髮ノ研究第三報告(短毛―眉毛、睫毛、鼻毛、耳(珠)毛)、―毳毛(顔面―軀幹―四肢ニ於ケル生毛)等ヲ報告セリ。

特ニ毛髮ノ横斷面ニ就テノ顯微鏡的計測成績(支那人、日本人ノ各種ノ毛及朝鮮人ノ頭髮トヲ比較セルモノ)ハ東京帝國大學醫科大學紀要第十四卷(千九百十五年)ニ於テ「支那人ノ人種解剖學的研究(毛髮)ト題シテ之ヲ公ニセリ。

第二筋 肉

筋肉ニ就テハ余ハ解剖實習ノ都度特ニ其適良ナル材料ヲ選ビ防腐液ヲ注射スル事ナク特ニ可及的速ニ各部ノ筋肉ノ解剖實習ニ供スルト同時ニ余自ラ各筋肉ニ就テ計測秤量セリ。

(筋肉及腱ノ發生ノ度ハ各人多少異ナルヲ以テ余ハ常ニ筋肉及腱ヲ加ヘ其全量ヲ秤定セリ。)

筋肉ノ數ニ就テハ Dunsy 氏ニヨレバ三百七十二ナリト云フ。

Kranse 氏ニヨレバ骨格筋有對二百七十七、無對二其他内臟筋男子有對三十九、無對五、女子有對三十八無對六ナリト云フ。

新シキ獨逸ノ解剖學名彙 B. N. A. ニ現ハレタル名稱ニ就テ之ヲ見ルニ骨格筋ニ就テハ有對三百二十七、無對二(即三百二十九種、六百五十六筋)ヲ數ヘ得ルナリ。

其他内臟筋トシテ有對四十七、無對二ヲ存スルナリ。

更ニ骨格筋各部ニ就テ分類スル時ハ下記ノ表ノ如クナルナリ、余ハ胸筋ニ就テハ肋骨舉筋内外肋間筋ノ如キハ分離セズ背筋ノ深層ノ筋ナドモ皆之ヲ合同シテ秤量セリ。

其他手、足筋ノ内ノ蟲樣筋、骨間筋ノ如キモ一々區別シテ秤量セザリキ、故ニ余ガ秤量シ得タル筋肉ノ數ハ三百六筋ニシテ即下記ノ表ノ下段ニ記入セルモノコレナリ。

	有對筋	無對筋	余ノ秤量セルモノ
頭部	二五	一	二六
頸筋	一六	一	一六
項及背部	一二二	一	二九
胸部	五二	一	七
腹部骨盤	八	一	六
合計	二二三	二	六六
上肢筋	五二	一	三九
下肢筋	六二	一	四九
合計	一一四	一	八八
總計	三三七	二	一五二

※眼輪匝筋ノ淚骨部ヲ「ホルネル」氏筋トシテ加算セル爲也

第三内臟

内臟ニ就テハ消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器ニ類別シ消化器トシテハ齒牙、唾液腺、舌、咽頭、食道、小腸(十二指腸、空腸及廻腸)、大腸(盲腸、蟲樣突起、結腸及直腸)及び肝臟、胰臟等ヲ計測秤量シ、呼吸器トシテハ喉頭、氣管及氣管枝、肺其他甲狀腺等ヲ測定シ、泌尿器トシテハ腎臟、副腎、輸尿管、膀胱、尿道等、生殖器トシテハ睪丸、

副睪丸、輸精管、精囊、攝護腺、陰莖(女性生殖器トシテハ卵巢、輸卵管、子宮、膾)等ニ就キ一々其大サ重量ヲ測定セリ。

但シ内臓ハ多クハ病理解剖ノ際剔出セラレタルモ、特ニ其内病的ナラザルモノニ限リ特ニ稻本教授ノ厚意ニヨリ本成績ノ中ニ加フルコトヲ得タルハ余ノ最モ幸福トシ深ク同教授ニ感謝スル所トス。

其他循環器ニ就テハ特ニ心臟ノ大サ重量及ビ主要ナル動脈ノ計測ヲ行ヘリ。

神經系統ニ就テハ特ニ腦ノ重量ヲ秤定シ今日迄男子四十五、女子五名ノ腦ヲ貯藏シ其他ノ研究用ニ供セリ。

又五官器ニ就テハ視器及ビ聽器ニ於テ特ニ計測ヲ試ミタルモノアルモ是等ニ關スルコトハ他日別ニ其成績ト共ニ報告スベシ。

研究成績總括

身體各器官系統ノ比較

余ハ今余ノ研究材料(男屍八十一、女屍十二名)ノ身體各器官系統ニ就テノ成績ヲ記載スルニ先チ余ガ研究材料中最モ理想的ノ材料タリシ朝鮮人(死刑者男子)一名及ビ日本人(死刑者男子)一名ニ於テ全身各器官ニ就テ一々測定セル成績ノ中ヨリ特ニ重量ニ就テノ成績總表ヲ掲ゲ體重ト比較シテ各器官系統ノ優劣ヲ論ゼントス。

附記 朝鮮人ノ體格ハ余ガ調査ニヨレバ其身長ハ大多數ハ一六〇乃至一六五糎ニシテ京畿道人ハ平均一六二糎ナリ又體重ハ大多數ハ五五乃至六〇斤ニシテ京畿道人ハ平均五六斤ナリ而シテ日本人ノ身長ハ約一五九糎ニシテ體重ハ約五三斤ヲ算ス故ニ朝鮮人(男子)ハ日本人(男子)ニ比シ一般ニ身長、體重共ニ稍大ナルヲ常トス然ルニ本例ニ於テハ偶然ニモ朝鮮人ハ日本人ヨリモ身長小ナリシニ準ジ體重モ亦小ナリシナリ而モ余ハ身體各器官ノ重量ノ體重ニ對スル比較的重量ヲ參照シテ其優劣ヲ論ズルヲ以テ其間何等不都合ナキヲ信ズ。

(75)
今左ニ余ガ日本人及朝鮮人ニ就テ測定セル各器官系統ノ總重量成績ト歐洲人ノ成績トヲ比較列記センカ。

測定者	久保	久保	Vierordt	G. V. Liebig I	G. V. Liebig II	F. Bischoff
年齢	日本人(男子) 四十歳	朝鮮人(男子) 四十一歳	歐洲人(男子) 成	男子 三十五歳	男子 三十五歳	男子 三十三歳
體 重	四八・五七	四七・七五	五六・一〇〇	五五・七四九	五七・五二	五九・六六
運 動 器	三〇・九二五・四 (三〇・四八%)	三六・九二五・二 (三〇・五四%)	四〇・〇七〇 (七〇・四%)	三九・五二六・〇 (六九・九%)	四六・三二四・〇 (八〇・九%)	四〇・一八・〇 (七〇・七%)
骨 格	九・〇三三・〇 (八・六二%)	八・九二二・六 (一八・八%)	一一・五七三・〇 (二〇・四%)	一一・四四〇・〇 (二〇・三%)	一一・九四二・〇 (二一・三%)	一一・〇八〇・〇 (二〇・〇%)
筋 肉	三三・七六・四 (四・六%)	二九・九三三・六 (四・七%)	三六・三三三・〇 (四・〇%)	三三・〇三二・〇 (四・七%)	三三・九三三・〇 (四・〇%)	三九・一〇二・〇 (四・一%)
皮膚及皮下脂肪組織	一一・六五九・〇 (三・六%)	一一・五〇〇・〇 (四・〇%)	一一・二二五・〇 (二・七%)	九・六二五・〇 (二・七%)	一五・三三三・〇 (九・九%)	一七・四三〇・〇 (四・〇%)
皮 膚	—	—	—	三・五三三・〇 (六・三%)	四・三三三・〇 (五・五%)	四・八五〇・〇 (六・六%)
皮下脂肪組織	—	—	—	六・一五九・〇 (一・〇%)	一一・〇八二・〇 (二・四%)	一一・五三〇・〇 (三・〇%)
測定者	久保	久保	Vierordt	G. V. Liebig	G. V. Liebig	F. Bischoff
年 齡	日本人(男子) 四十歳	朝鮮人(男子) 四十一歳	朝鮮人(男子) 四十一歳	歐洲人(男子) 成	歐洲人(男子) 成	歐洲人(男子) 成
消 化 器	三三・四三・〇 (四・六%)	三三・三三・六 (四・六%)	三三・四三・五 (六・八%)	三三・四三・五 (六・八%)	三三・四三・五 (六・八%)	三三・四三・五 (六・八%)
唾液腺、胃、腸管、 肝臟及脾臟	三三・三三・六 (四・六%)	三三・三三・六 (四・六%)	三三・三三・六 (六・五%)	三三・三三・六 (六・五%)	三三・三三・六 (六・五%)	三三・三三・六 (六・五%)
呼 吸 器	九・九二五・六 (一・九%)	九・九二五・六 (一・九%)	九・九二五・六 (三・〇%)	九・九二五・六 (三・〇%)	九・九二五・六 (三・〇%)	九・九二五・六 (三・〇%)
(肺 臟)	八・九二五・六 (一・八%)	八・九二五・六 (一・八%)	九・九二五・六 (二・九%)	九・九二五・六 (二・九%)	九・九二五・六 (二・九%)	九・九二五・六 (二・九%)
泌 殖 器	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)
生 殖 器	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)	三・九三三・三 (〇・八%)
(腎 臟)	一・九三三・三 (〇・四%)	一・九三三・三 (〇・四%)	三・九三三・三 (一・〇%)	三・九三三・三 (一・〇%)	三・九三三・三 (一・〇%)	三・九三三・三 (一・〇%)

(内臟ニ關シテハ、歐洲人ノ同一身體ニ於ケル各器官系統ニ就キ一正確ニ記載セルモノナキヲ以テ、其中ノ主要ナル臟器ニ就テノ成績ヲモ併記スルコト、セリ)

循環器	1.510	3.360	3.000	7.11%
(心臓)	0.510	0.770	0.560	
神經中樞器	3.948	3.550	3.840	
	0.660	0.840	0.900	
※(腦髓)	3.600	3.000	3.000	
	0.800	0.760	0.900	
※歐人平均	1377.0	1281.0	1281.0	
體重トノ比較の重量最小	2.00%	2.00%	2.00%	
最大	3.33%	3.33%	3.33%	
(Carns)				

其他歐洲人ノ内臟全體ノ重量ニ就テハ次ノ如キ成績アリ。

測定者	Liëbig	Liëbig	Bischoff	
年齢	男子 三十五歳	男子 三十五歳	男子 三十三歳	
體重	66.5kg	55.7kg	69.6kg	
内臟(神經系統、五臓器共)	10.00%	8.63%	7.00%	
	(15.11%)	(15.50%)	(10.06%)	
胃及腸内容	0.15%		0.83%	
	(0.23%)		(1.19%)	
尿			0.18%	
			(0.26%)	
血液	0.85%	0.43%	3.48%	
	(1.28%)	(0.78%)	(4.99%)	
蒸發量	0.90%	0.35%	0.60%	
消耗量	(1.36%)	(0.63%)	(0.96%)	

右ノ表ニヨレバ朝鮮人ハ日本人ヨリモ骨格ニ於テハ其比較の重量ハ僅ニ大トナルナリ然ルニ筋肉系統ニ於テハ反之日本人ハ朝鮮人ヨリモ絶對的、比較の共ニ優レルコトヲ知り得ベシ。實ニ日本人ノ筋肉ノ比較の重量ハ著シク大ニシテ歐洲人ヨリモ優レルナリ而シテ運動器(骨格、筋肉)全體ノ比較の重量トシテモ日本人ハ最モ大トナル也。

皮膚及皮下脂肪組織ニ就テハ余ハ別々ニ之ヲ測定セザリシモ其全量ニ於テ朝鮮人ハ日本人ヨリモ比較の大ナルヲ知レリ、余ハ少ナクトモ從來ノ實地解剖ノ經驗上朝鮮人ノ皮下脂肪量ノ一般ニ日本人ヨリモ多キコト、又骨格ノ稍大ナ

ルコトヲ注意セルナリ之ヲ約言スレバ日本人ノ體質ハ筋肉ニ於テ優リ朝鮮人ハ皮膚殊ニ脂肪又ハ骨格ニ於テ僅ニ大ナル民族タルベキ也。

次ニ内臓ニ就テ之ヲ見ルニ朝鮮人ノ消化器呼吸器ハ日本人ヨリモ絶對的、比較的共ニ多少大トナリ殊ニ消化器ハ朝鮮人ニ於テ著シク大ニシテ歐洲人ヨリモ比較的重要ハ優レルコトヲ認證セリ。

尙泌尿生殖器ニ於テモ朝鮮人ハ日本人ヨリモ比較的僅ニ大ナルヲ知ルベキ也。

最後ニ循環器(心臟)、神經中樞器(腦及脊髓)ニ就テハ日本人ハ朝鮮人ヨリモ絶對的、比較的共ニ優レルコトヲ認知シ得タリ、實ニ朝鮮人ノ頭骨(地平周圍)ノ小ニシテ而モ腦重量ノ小ナルコトハ余ノ既ニ注意セシ處トス。

要是日本人ハ神經中樞器及循環器(心臟)其他筋肉系統ニ於テ朝鮮人ニ優リ反之消化器、呼吸器、泌尿生殖器其他骨及ビ皮膚(皮下脂肪)等ノ如キ器官ガ朝鮮人ニ於テ日本人ヨリモ比較的大ナルコトヲ認證シ得ベキ也。

余ハ以上ノ成績ニ基キ特ニ朝鮮人ノ一般生活狀態ト對照シテ其ノ間甚ダ能ク相一致セル點アルヲ認メタル也。

先ヅ朝鮮人ノ日本人ニ比シ居常其動作ノ不活潑ニシテ顔面表情ノ如キモ敏活ナラズ一般ニ身體ノ表面上筋肉ノ起伏著シカラズ從ツテ外形ノ變化ニ乏シク、身體ノ各部(殊ニ四肢ノ各部)ハ一般ニ平等ナルガ如ク、又全ク活動的ナラザルハ筋肉系統(運動器)ノ發育貧弱ナルコト皮下脂肪層ノ一般ニ多キコトモ確ニ其一因タルベシト信ズ。

次ニ朝鮮人(殊ニ下流社會ノ者)ガ日常甚ダ粗糲ナル不消化物ヲ多量ニ食シテ著シキ胃腸ノ障害ヲ起サザルガ如キ傾キアルハ此民族ノ消化器ノ發育ノ特ニ旺盛ナルベキヲ思ハシムルナリ。

其他咀嚼筋及口圍筋ノ特ニ大ニシテ齒牙ノ發育ノ佳良ナルコトノ如キモ亦大ニ消化作用ヲ助クルノ條件タルベキ也。

最後ニ人體中最モ高等ノ器官タルベキ神經中樞器(腦及脊髓)及ビ循環器(心臟)ノ比較的小ナルコトハ甚ダ注意スベキ點ナランカ、既ニ余ハ此民族ノ身體ノ日本人ニ比シテ大ナルニ拘ラズ頭骨(地平周圍)ノ小ニシテ(頭蓋容積ハ夫ナルモ)腦重量ノ小ナルコトハ確ニ認知セル所ナリ。

思フニ腦ノ大小形狀ノミヲ以テ精神能力ノ如何ヲ判知スベカラズト雖モ而モ余ガ此材料ハ殆ンド皆監獄ノ囚人ニ屬シ其大多數ハ生前眼ニ一丁字ヲモ解セザリシ無教育者ナリシ事ニ對照シテ一層其ノ間ノ關係ヲ適切ニ感ゼシムルヲリ。朝鮮一般ノ現狀ヨリ之ヲ見ルモ普通學校ノ設備ハ其ノ人口ニ比較シ尙甚ダ僅少ニ過ギズ即此民族ノ大多數ハ殆ンド無教育者ニ屬シ智の方面ニ於テ大ナル缺陷アルヲ覺ユ。

余ハ於是乎現在朝鮮民族ノ統治上最モ樞要ニシテ且ツ最モ急務トスベキモノハ先ヅ此民族一般ニ對シ普通教育ノ普及ヲ計リ智の方面ノ發達ヲ期スベキコトニアラント信ズ。

余ハ尙以上ノ各器官系統ノ各部ニ於ケル比較的關係ヲ追究スベク更ニ朝鮮人男女ニ就テ調査シ之ヲ日本人歐洲人ニ比較シテ甚ダ種々ノ興味アル差異ヲ發見セルモ茲ニハ只筋肉系統ニ就テ其梗概ヲ論述スルニ止メ他ノ系統ニ關シテハ後日ヲ期セントス。

第一 筋肉系統

其一 全身筋肉ノ重量ニ就テ

抑モ歐洲人ノ筋肉全重量ニ就テハ P. E. 氏ノ記載ニヨレバ千八百七十四年氏ガ七十五斤ノ體重ヲ有スル死體ニ於テ秤量シ筋肉三一・〇即體重ノ四一・三三%ナリシト云フ。

次デ千八百八十四年 Theile 氏ノ報告ニヨレバ六十八斤ノ體重ヲ有スル者ニ於テ二四・四五斤即體重ノ三五九六%ナリシト云フ。

又千九百十年 Fimbringer 氏ハ體重六十斤ノ者ニ於テ平均二四・〇斤即體重ノ四〇%ナリト記セリ。

但シ闘技者 Athleten ニ於テハ筋肉重量ハ五〇%ニ上ルト云フ。

Theile 氏ニヨレバ完全ニ生長セル筋肉強キ中等大ノ男子ニ於テ筋肉重量ハ體重ノ平均三六%ナリ然レドモ或ハ四五%ニ上リ或ハ三〇%ニ下ルト云フ。

又成人ノ女子ニ於テハ平均三二%ヲ越エズト云フ。

Vierordt's Daten und Tabellen ニヨレバ歐洲人(成人)男子體重六六、二〇〇ニ於テ筋肉重量二八、七三二(四三・四〇%)ナリト云フ。

又 E. Bischoff ニヨレバ三十三歳ノ男子體重六九、六六八ニ於テ筋肉二九、一〇二(四一・七%)アリ二十二歳ノ女子體重五五、四〇〇ニ於テ筋肉一九、八四六(三五・八%)ナリト云フ。

G. v. Liebig 氏ニヨレバ三十五歳ノ二名ノ男子ニ就キ平均體重六六、二三〇筋肉二七、六二七アリト云フ。

其他

Dusy ニヨレバ三十六歳ノ男子筋肉重量 一八、四八四

Volkmann ニヨレバ四十二歳ノ男子ニ於テ 三〇、五七四

Th. v. Bischoff ニヨレバ二十一歳ノ女子筋肉量 二一、八四〇

Dusy ニヨレバ六十一歳ノ女子ニ於テ 一四、四七六

ナリト云フ。

要スルニ歐洲人ノ筋肉重量ハ男子ハ一八、〇〇〇乃至三二、〇〇〇ノ間ニアリ體重ノ三〇乃至四五%ニ相當ス。

(但シ前記身體各器官ノ表ニハ余ハ H. Vierordt ノ成績ヲ記入シ置ケリ是レ同一死體ニ於ケル各器官系統ノ比較關係ヲ知ランガ爲メナリ)

日本人及朝鮮人ノ筋肉重量ニ就テハ今日ニ至ル迄未ダ曾テコレガ測定報告ヲナシタルモノアルヲ聞カズ。今余ガ上記(各器官系統ノ重量比較表ニ就テ)日本人及朝鮮人ノ成績ヲ見ルニ

日 一 本 人 (一名) 二一、七六〇(四四・八六%)

朝 鮮 人 (一名) 一九、九三二(四一・七三%)

即兩民族共歐洲人ノ成績(體重ニ比較シテ二〇—四五(四〇—四五)%)ニ略相一致セルモ特ニ日本人ニ於テノ筋肉ノ比較的重量ハ最モ大ナルコトヲ推知シ得ベキ也。

其二 軀幹、上肢及下肢ノ筋肉重量ニ就テ

次ニ軀幹上肢ニ於ケル筋肉重量ノ割合ニ就テ論ゼンカ。

體重=100.0

※全身筋肉重量ヲ同一身体ニ於テ悉ク秤定シ得タルモノハ前記朝鮮人及日本人死刑者ノ一名ナルモ其他軀幹、上肢及下肢ノ一部ニ就キ秤定タルモノ男子十名女子三名アリ今是等チ一々表記シ難キヲ以テ單ニ平均値ヲ示シ附記セリ。

種別	日本人		朝鮮人		歐洲人	
	男子一名	(一名) (%平均量)	(一名) (%平均量)	I 男子	II 男子	Bischoff 男子 (33g.)
軀幹	6260.0 = 12.60%	5082.4 = 10.64	5160.0	6130 = 10.99	9728 = 12.71	7978 = 11.45%
上肢	3938.6 = 8.12	3631.7 = 7.60	3475.3	3354 = 6.02	4419 = 5.78	5674 = 8.14
下肢	11561.8 = 23.84	11218.5 = 23.49	9994.7	13578 = 24.36	18047 = 23.59	15451 = 22.18
四肢	15500.4 = 31.96	14850.2 = 31.09	13470.0	16932 = 30.38	22466 = 29.37	21125 = 30.32
全體	48507 = 100.0	47765 = 100.0	—	55749 = 100.0	76511 = 100.0	69668 = 100.0

全筋肉重量=100.0

種別	日本人		朝鮮人		歐洲人	
	男子一名	(一名) (%平均量)	(一名) (%平均量)	I 男子	II 男子	Bischoff 男子
軀幹	28.7%	25.5%	27.7%	26.58%	30.22%	27.41%
上肢	18.1	18.2	18.65	14.54	13.72	19.50
下肢	58.2	56.3	53.65	58.88	56.08	53.09
四肢	71.3	74.5	72.3	73.42	69.78	72.59
全筋肉重量	21760.4 = 100.0	19932.6 = 100.0	18630.0 = 100.0	23062 = 100.0	32194 = 100.0	29103 = 100.0

(81) 右ノ表ニヨレバ軀幹、上肢及下肢ノ三部中下肢筋ノ最モ大ニシテ上肢筋ノ最モ小ナルコトハ各民族皆相一致セリ而モ精細ニ觀察スルトキハ日本人ノ軀幹筋ハ比較的最モ大ナル割合トナリ下肢筋ノ比較的重量ハ反之最モ小ナル割合ト

ナルコトヲ知ルベシ。

(82) 又朝鮮人ハ日本人ヨリモ軀幹筋ハ比較的小ナルモ上肢筋及下肢筋ハ僅ニ大ナル割合トナル事ヲ認識シ得ベキ也。

其三 軀幹筋肉ノ重量ニ就テ

余ハ軀幹筋ニ關シテハ背側筋(背筋)及ビ腹側筋(頭、頸、胸及腹筋)ニ就テ次ノ如キ成績ヲ得タリ。(一々ノ筋肉重量ハ略ス)

部位	日本人		朝鮮人		歐洲人
	男子(一名)	(平均量)	男子(一名)	(平均量)	
全 軀 幹 筋	6260.0 = 12.90	5082.4 = 10.64	5160.0	3876.0 (Dursy)	
全軀幹筋重量 = 100.0					
頭	364.0 = 0.75	344.0 = 0.72	344.0	538.0 (Dursy)	
頸	290.0 = 0.60%	313.1 = 0.66%	295.0	1074.0 (Dursy)	
胸	2151.0 = 4.41	1468.3 = 3.07	1432.6	538.0 (Dursy)	
腹	1219.0 = 2.51	977.5 = 2.04	841.2	1074.0 (Dursy)	
體重 = 100.0					
軀幹背側筋	2236.0 = 4.57%	1894.5	2247.2	1708.0 (Dursy)	
軀幹背側筋	2134.0	1894.5	2247.2 = 43.55%	1708.0 (Dursy)	
軀幹背側筋	2236.0 = 35.72%	1979.5 = 38.35%	2447.2 = 43.55%	1708.0 (Dursy)	
軀幹腹側筋	4024.0 = 64.28	3102.9 = 61.05	2912.8 = 56.45	2108.0 (Dursy)	
頭 筋	4.63	6.19	5.72	—	
頸 筋	5.82	6.77	6.67	—	

※ 肋骨筋ヲ除ケルモノ

日本人

朝鮮人

歐洲人

軀幹背側筋

2236.0 = 4.57%

1894.5

2247.2

1708.0 (Dursy)

軀幹腹側筋

4024.0 = 4.57%

3102.9 = 6.50%

2912.8

2168.0

頭 筋

364.0 = 0.75

344.0 = 0.72

344.0

538.0 (Dursy)

頸 筋

290.0 = 0.60%

313.1 = 0.66%

295.0

1074.0 (Dursy)

胸 筋

2151.0 = 4.41

1468.3 = 3.07

1432.6

538.0 (Dursy)

腹 筋

1219.0 = 2.51

977.5 = 2.04

841.2

1074.0 (Dursy)

全 軀 幹 筋

6260.0 = 12.90

5082.4 = 10.64

5160.0

3876.0 (Dursy)

軀幹背側筋

2134.0

1894.5

2447.2 = 43.55%

1708.0 (Dursy)

軀幹腹側筋

4024.0 = 64.28

3102.9 = 61.05

2912.8 = 56.45

2108.0 (Dursy)

頭 筋

4.63

6.19

5.72

—

頸 筋

5.82

6.77

6.67

—

胸筋	34.36	28.89	27.76
腹筋	19.47	19.23	16.30
全 體 筋	6260.0 = 100.0	5082.4 = 100.0	5160.0 = 100.0
			3876.0 (Dunsky)

今上記ノ成績ニ就テ之ヲ見ルニ

(一)背筋ハ Dunskyノ成績ニ比較シテ日本人及朝鮮人ハ歐洲人ヨリモ大ナルベキヲ知り又朝鮮人ハ日本人ヨリモ比較的大トナリ(一名ノ成績ニ於テハ小トナレルモ)特ニ淺層ト深層トノ比較上朝鮮人ノ深層筋(薦棘筋)ノ甚ダ大ナル割合トナルコトヲ知レリ而シテ余ハ之ヲ以テ此民族ノ人種的特徴ノ一トセリ。

(二)頭筋ハ全體ニ於テハ朝鮮人ハ日本人ヨリ大トナレリ殊ニ下顎筋(顚顚筋、咬筋)ノ著シク大ナルコトヲ知レリ而シテ又此民族ノ齒牙發生ノ佳良ナルニ一致シテ興味アル點ナルベシ尙又口圍筋ノ稍大ナルコト(口唇ノ厚キニ一致ス)及ビ鼻筋ノ鼻翼部ノ稍大ナルコト(鼻翼ノ弘濶ナルニ一致ス)其他外耳筋ノ僅ニ大ナルガ如キコトハ日本人ヨリ優レル點ナリシモ其餘ノ筋肉即前頭筋、後頭筋、眼圍筋、皺眉筋、笑筋、頤筋等ハ日本人ニ比シ劣レルコトヲ知レル也。要是頭筋ニ就テハ朝鮮人ハ顔面表情ニ關スル諸筋ノ發育劣等ナルモ咀嚼運動及ビ口圍ニ於ケル筋肉ノ發育ハ甚ダ強大ナルヲ證認スベキナリ。

歐洲人ノ成績トシテハ余ハ只 Dineley氏ノ咀嚼筋重量ニ比較シテ日本人ハ絶對的ニハ小ナルモ比較的ニハ僅ニ大トナリ朝鮮人ハ絶對的比較的共同ニ甚ダ大ナルヲ確知シ得タル也。

(三)頸筋ハ全體ニ於テハ朝鮮人三四四・〇(〇・七二%)ハ日本人三六四・〇(〇・七五%)ヨリ僅ニ小ナリ是レ殊ニ胸鎖乳頭筋ノ著シク小ナリシニ基因ス更ニ詳論スレバ皮下頸筋ハ顔面(皮下)筋ノ小ナリシニ準ジテ又僅ニ小ナリ而シテ殊ニ胸鎖乳頭筋ノ著シク小ナリシコトハ最モ特筆スベキ點ナリ但シ舌骨下筋類及舌骨上筋類ハ下顎筋ノ甚ダ大ナリシニ準ジテ僅ニ大ナリシノミ。

要スルニ朝鮮人ノ前頸筋(淺頸筋)全體ニ於テハ日本人ニ比シ小トナレルナリ反之後頸筋(深頸筋)ハ一般ニ朝鮮人ニ於テ僅ニ大トナレルナリ。

(背筋ノ深層筋ノ大ナリシト對照シテ興味アル點ナランカ)

(四)胸筋ハ全體ニ就テハ日本人ハ朝鮮人ニ比シ甚ダ大ナリ是レ殊ニ大胸筋ノ日本人ニ於テ著シク大ナリシニ基因ス。歐洲人ノ大胸筋ハ Dunsy ニヨレバ三四七・〇ナリト云フ然ルニ日本人ハ七〇三・〇朝鮮人ハ四四〇・〇ナリシナリ其他小胸筋、前鋸筋、鎖骨下筋及ビ胸壁諸筋モ亦皆朝鮮人ハ日本人ヨリモ小ナリシナリ。

横隔膜ニ就テハ歐洲人ニアリテハ二六三・六(Dunsy)ナリト云フ日本人三六〇・〇、朝鮮人二八三・〇トナレリ。

(五)腹筋ハ全體ニ於テ歐洲人ハ一〇七四・〇(一七三%)ナリト云フ(Dunsy)余ガ成績ニヨレバ日本人一二一九・〇(二・五%)朝鮮人一名九七七・五(二・〇四%)平均量ハ八四一・二トナレリ。

即日本人ハ最モ大ニシテ朝鮮人ハ歐洲人ヨリモ比較的重量ニ於テ稍大ナルガ如シ。

日本人ノ朝鮮人ニ比シ腹筋ノ大トナリシハ特ニ日本人ノ直筋(縱筋)ノ甚ダ大ニシテ朝鮮人ノ甚ダ小ナリシニ基因ス(反之斜筋(廣筋)ハ朝鮮人ニ於テ却テ僅ニ大ナリシナリ。

朝鮮人ノ腹圍ハ日本ノ勞働者ヨリハ小ナルモ日本ノ上流者及學生ニ比シ著シク大ナリ而シテ一見此民族ノ腹部ハ前下方ニ膨出スルモノ多キヲ以テ腹筋ノ發育モ亦大ナルガ如ク思ハルルモ事實ハ之ニ反シ特ニ皮下脂肪ノ日本人ニ比シ一般ニ大ナルニヨルナラント信ズ。

其四 四肢筋肉ノ重量ニ就テ

四肢筋ニ就テハ余ハ左ノ如キ成績ヲ得タリ。

總量 = 100.0

	日本人(男子)		朝鮮人(男子)		歐洲人(男子)	
	(一) (名)	(平均量)	(一) (名)	(平均量)	I (Liebig)	II (Liebig) (Fischhoff)
上肢筋	3838.6 = 8.19%	3631.7 = 7.60	3475.3 = (7.30)	3354.0 = 6.02	4419.0 = 5.78	5674.0 = 8.14
下肢筋	11591.8 = 23.84	11218.5 = 23.49	9934.7 = (20.90)	12578.0 = 24.36	18047.0 = 23.59	15451.0 = 22.18
四肢筋	15500.4 = 31.96	14850.2 = 31.09	13470.0 = (28.20)	16932.0 = 30.38	22466.0 = 29.37	21,125.0 = 30.32
體	48,507 = 100.0	47,765 = 100.0	—	55749.0 = 100.0	76,511.0 = 100.0	69,668.0 = 100.0
全筋肉重量 = 100.0						
上肢筋	18.1	18.2	18.65	14.5	13.7	19.5
下肢筋	53.2	56.3	53.65	58.9	56.1	53.1
四肢筋	71.3	74.5	72.3	73.4	69.8	72.6
全筋肉重量	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

日本人ノ四肢筋全重量ハ一五五〇・四ニシテ全身筋肉重量ノ七二・三%ニ當リ朝鮮人(一名)ハ一四八五〇・二(七四・五%)トナリ平均量ハ一三三七〇・〇(七二・三%)トナレリ。

歐洲人ハ Liebig ニヨレバ七三・四%又ハ六九・八%ナリト云ヒ Bischoff 氏ハ七二・六%ナリト云フ要スルニ軀幹筋ガ日本人朝鮮人ニ於テ割合ニ大ナリシニ準ジテ四肢筋ハ小ナル割合トナレルナリ殊ニ日本人ニ於テ四肢筋ハ軀幹筋ニ比シ最モ小ナル割合トナレル也。

其五 上肢筋ト下肢筋トノ比較

下肢筋ハ直立位ニ於ケル身體ノ均衡保持並ニ全身ノ移動機關トシテ吾人ノ生活及體育上最モ重大ナル任務ヲ有スルヲ以テ特ニ強大ナリ從ツテ下肢ノ運動ハ上肢ノ運動ノ複雑巧妙ナルニ對シ作業力ノ大ナルヲ特徴トス。

故ニ上肢筋ハ下肢筋ト比較シテ其重量遙ニ小ナルコトハ各民族ニ於テ皆相一致セリ。然レドモ其差隔ニ就テハ各人種間、男女、年齢等ニ從ヒ種々ノ相違アルベシト信ズ。

今上記ノ表ニヨレバ日本人及朝鮮人ハ歐洲人ニ比シ上肢筋、下肢筋共ニ劣レルモ特ニ下肢筋ニ於テ著シク小ナル割

合トナルコトヲ知ルベキナリ。

又朝鮮人ト日本人トヲ比較スルニ朝鮮人ノ上肢及下肢筋ノ體重ニ對スル比較的重量ハ日本人ヨリ小トナレルモ全筋肉重量ニ對スル比較的重量ハ日本人ヨリ大トナレリ換言スレバ日本人ノ軀幹筋ガ比較的大ナリシ爲メ四肢筋ハ朝鮮人ヨリ小ナル割合トナレルナリ。

而シテ上肢ト下肢トニ就テ之ヲ見ルニ日本人ノ上肢筋ハ朝鮮人ヨリ大ナル割合トナリ朝鮮人ノ下肢筋ハ日本人ヨリ大ナル割合トナルナリ。

其六 上肢筋ニ就テ

上肢筋ノ全重量ハ余ノ調査ニヨレバ左ノ如シ。

	比較的 重量	
	體重 1100.0	筋肉全重量 1100.0
日 本 人 (一名)	356.6	18.1
朝 鮮 人 (一名)	323.7	16.3
同 上 六名平均	347.3	18.5
歐洲人 Liebig (I)	354.0	19.5
Liebig (II)	419.0	23.7
Bischoff	347.0	19.5
Frankel und Froese	355.0	19.5

上肢筋ノ絶對的重量ハ歐洲人最モ大ナリ(只 Liebigノ一例ハ最モ小トナレルモ)日本人之ニ次ギ朝鮮人最モ小ナリ。然ルニ體重トノ比較的重量ハ日本人最モ大トナリ朝鮮人之ニ次ギ歐洲人最モ小トナレリ(但シ Bischoffノ一例ハ最モ大トナレリ)。

反之全筋肉重量トノ比較的重量ハ朝鮮人最モ大トナリ日本人之ニ次ギ歐洲人最モ小トナレリ(只 Bischoffノ一例ハ

最モ大トナレリ。

要是日本人及朝鮮人ハ歐洲人ヨリモ比較的大ナル上肢筋ヲ有スルナリ而シテ全筋肉重量ニ對シテハ朝鮮人ノ上肢筋ハ最モ大ナル割合トナルコトヲ知ルベシ。

其七 上肢ノ各部ニ就テ

更ニ上肢ノ各部ニ於ケル筋肉重量ヲ比較センカ。(一々ノ筋肉重量ハ略ス)

	日本人		朝鮮人		歐洲人	
	男	子(一名)	男	子(一名)	男	子(平均量)
肩 胛 筋	1519.5 = 38.7%		1465.0 = 40.3%		1309.5 = 37.7%	2237.0 = 41.5%
上 腕 筋	1264.5 = 32.2		1113.0 = 30.1		1046.2 = 30.1	1576.0 = 29.3
前 腕 筋	1013.3 = 25.9		929.5 = 25.9		995.4 = 29.0	1363.0 = 25.3
手 筋	140.7 = 3.21		24.2 = 3.1		124.2 = 3.2	210.0 = 3.9
上 肢 筋	3838.6 = 100.0		3631.7 = 100.0		3475.3 = 100.0	5355.0 = 100.0

(一) 肩胛筋ハ歐洲人ニ於テ最モ大ナル割合トナリ日本人ニ次ギ朝鮮人(平均量)最モ小ナリ。

朝鮮人ノ肩胛筋ノ小ナルコトハ下記外腕部筋(臀筋)ノ著シク貧弱ナリシト共ニ此民族ノ人種の特徴ナランカ。

(二) 上腕筋ハ日本人最モ大ニシテ朝鮮人之ニ次ギ歐洲人最モ小ナル割合トナレリ。

(三) 前腕筋ハ朝鮮人(平均量)最モ大ナル割合トナリ日本人歐洲人之ニ次ゲリ。

元來前腕筋ハ上腕筋ニ比シ小ナルヲ通例トス(歐洲人日本人ニ於テ然リ)然ルニ朝鮮人ノ前腕筋ハ比較的大ナリ(殊

ニ其ノ平均量ヲ見ルニ殆ンド大差ナキナリ)即朝鮮人ノ上腕及前腕ハ兩者ノ間ニ著シキ筋肉量ノ差異ナク略平等ニ

發育セルナリ。

實ニ吾人ハ朝鮮人生體ノ検査ニ於テ其外形上既ニ此點ヲ注意セル所トス。

(四) 手筋ハ歐洲人ハ絶對的比較の共ニ最モ大ニシテ日本人、朝鮮人之ニ次ギ特ニ朝鮮人(一名)ニ於テ最モ小トナレル

ナリ。

要是歐洲人ハ上肢中特ニ肩胛筋ト手筋トハ最モ大ナル割合トナリ日本人ニ特ニ上膊筋ノ大ナル割合トナリ、朝鮮人ハ特ニ前膊筋ノ大ナル割合トナリ日本人ニ特ニ上膊筋ノ大ナル割合トナリ、朝鮮人ハ特ニ前膊筋ノ大ナル割合トナル。而シテ朝鮮人ノ前膊筋ノ特ニ大ナルコトハ下記下肢筋ニ就テ下腿筋ガ比較的大ナリシコトト共ニ此民族ノ人種的特徴ナランカ。

其他朝鮮人ノ肩胛筋ノ小ナルコトモ下記外腕部筋(臂筋)ノ著シク小ナリシト共ニ注意スベキ點トス。

其八 下肢筋ニ就テ

下肢筋ノ全重量ハ余ノ調査ニヨレバ左ノ如シ。

	絶對的 重量	比較 的 重量
日 本 人 (一名)	二五二・八	體重 1100.0 筋肉全重量 100.0 三三・八四
朝 鮮 人 (一名)	二三八・五	三三・九
同 (平均量)	九九四・七	三〇・九〇
歐 洲 人 Liebig (I)	三三七・〇	三四・六六
Liebig (II)	一八〇・〇	三三・五
Bischoff	一五四五・〇	三三・一八
Dunsky	一八六・三	三〇・〇一

下肢筋ノ絶對的 重量及體重トノ比較的重量ハ歐洲人(Dunsky)ニ於テ最モ大トナリ日本人之ニ次ギ朝鮮人最モ小トナレリ。

然ルニ筋肉全重量ニ對スル比較的重量ハ朝鮮人ハ日本人ヨリ僅ニ大トナレリ換言スレバ日本人ノ下肢筋ハ最モ小ナル割合トナルナリ。

其九 下肢ノ各部ニ就テ

更ニ下肢ノ各部ニ於ケル筋肉重量ヲ比較センカ。(一々ノ筋肉重量ハ畧ス)

部 筋	日 本 人		朝 鮮 人		歐 洲 人 Frohse u. Frenkel
	男 子(一名)	男 子(平均値)	男 子(一名)	男 子(平均値)	
膕 部 筋	3350.5 = 28.99%	2350.0 = 28.09%	2808.1 = 28.02%	25.98%	52.44
大 腿 筋	5879.5 = 50.85	5601.0 = 50.19	5015.4 = 50.17	18.95	2.63
下 腿 筋	2016.5 = 17.44	1995.5 = 19.09	1907.8 = 19.18	100.0	
足 筋	315.3 = 2.72	266.0 = 2.63	263.4 = 2.63		
全 下 肢 筋	11561.8 = 100.0	11218.5 = 100.0	9994.7 = 100.00		

(一)膕部筋ハ日本人ハ朝鮮人及ビ歐洲人ニ比シテ大ナリ。

特ニ外膕部筋(臀筋)ノ朝鮮人ニ於テ發育著シク貧弱ナリシコトハ此民族ノ人種的特徴タルベシ又日本人ハ歐洲人ヨリモ比較的大トナレルナリ。

(但シ内膕部筋ハ朝鮮人ニ於テ僅ニ大トナレル)

(二)大腿筋ハ歐洲人ニ於テ最モ大ナリ而シテ日本人ハ朝鮮人ニ比スルトキハ稍大ナルナリ。(殊ニ前側及内側筋ハ大ニシテ只後側筋ノミハ朝鮮人ノ方僅ニ大トナレルナリ。)

(三)下腿筋ハ朝鮮人ニ於テ特ニ甚ダ大ナリ歐洲人之ニ次ギ日本人最モ小ナル割合トナレル。

朝鮮人が上肢ニ於テ前膊筋ノ特ニ大ナリシト全ク同様ノ關係ヲ以テ下肢ニ於テ下腿筋ノ特ニ大ナルヲ發見セルハ興味アル點ナリ。

換言スレバ下腿ハ大腿ニ比シ小ナルコトハ各民族ニ於テ皆相一致スルモ朝鮮人ノ下腿ガ日本人、歐洲人ニ比シ特ニ大ナル割合ナルコトハ大腿、下腿ノ差異ノ甚ダ大ナラザルコトハ此民族ノ人種的特徴ノ一ナランカ。

(四)足筋ハ日本人ニ於テ最モ大ナル割合トナレリ、朝鮮人ハ日本人ニ比シテ小ナリ。(殊ニ朝鮮人女子ハ著シク小ナル

ベシ)

日本人ガ日常比較的足ヲ束縛スルコトナク少シテ自然ノ發達ニ任セルニ反シ、歐洲人ハ常ニ靴ヲ穿テ、朝鮮人ノ如キハ殊ニ足ヲ緊縛スルノ風習アルガ爲メ此民族ノ足ノ狭小ナルコトハ既ニ余ノ注意セシ所ニシテ、足筋ノ發育モ亦從ツテ不良ナルベキハ當然ナルベキナリ、余ハ特ニ朝鮮人女子ニ於テ著シク足筋ノ小ナルヲ認定セリ。

要是下肢筋中日本人ハ腕部筋及足筋最モ大トナリ歐洲人ハ大腿筋最モ大トナリ朝鮮人ハ下腿筋特ニ最モ大ナル割合トナレルナリ。

朝鮮人ノ下腿筋ガ日本人歐洲人ニ比シ特ニ大ナル割合トナレルコトハ上肢ニ於テ前膊筋ガ比較的大ナリシコトト共ニ興味アル點ナリト信ズ。

其他腕筋中外腕部筋(臂筋)ノ發育ノ貧弱ナリシコト及ビ足筋ノ小ナルコト(殊ニ女子ニ於テ著シク小ナルコト)モ亦此民族ノ人種的特徴ト云フベキ也。

余ハ以上筋肉系統ニ就テ殊ニ男子ノ身體各部ノ筋肉重量一般ニ就テ論述セリ。『尙身體各部ニ於ケル筋肉ヲ運動生理學ノ上ヨリ觀察シテ更ニ各種運動上ノ分類ニ從ツテ其優劣ヲ論ズベキモノアリ。』

其他全身諸筋肉ノ大小(強弱)ハ身體各部ニ於テ如何ナル順序ニ配置セラルルヤ。又諸筋肉ガ身體ノ左右兩側ニ於テ如何ナル相違アリヤ等比較論究スベキモノアルモ茲ニハ省略セリ。

尙筋肉系統ニ次テ消化器、呼吸器、泌尿生殖器其他心臟及腦等各系統ニ就テハ後日更ニ順次報告スルコトトセントス。